

14 階西病棟年報

<概要>

14 階西病棟は神経精神科病棟であり、20 床で運営している。

入院患者様は女性が 8 割を占めており、うつ状態の患者様が多く、統合失調症、パーソナリティ障害、摂食障害と続く。年齢層は 20 歳代から 80 歳代と幅広く独居生活者が多く退院後の生活に対しての何らかの援助が必要な患者様も多く介護認定、訪問看護などの社会資源の活用も入院中に情報を取り P S W と共に考えている。

看護スタッフは 11 人でスタッフや患者様、ご家族共に誰でも声を掛けやすい雰囲気の中で看護を提供している。開放病棟のため保護室はなく他の病棟と構造は同じであるということで、精神科という閉鎖的なイメージがないのが病棟の特徴であるが、看護師が一番神経を使っている事は、患者様に事故がないよう少しの変化にも気付け声掛けし話を聞くことである。

その為には毎日のカンファレンスで精神状態、セルフケアの査定を丁寧に行い患者の状態把握をしている。

今年度から 15 : 1 の看護基準を申請しているため在院日数の縛りがなくなり難治性うつ病の患者様も受け入れやすくなっている。

近隣のクリニックからの紹介患者様も多く、退院後には紹介元に戻し連携をとっている。

<活動>

精神科病棟では、生活のリズムをつけ退院後の生活に近づけることが大切で毎日ラジオ体操、折り紙、塗り絵など毎日のレクリエーション活動も時間の許す限り工夫し行なっている。

また、年間の計画の中で夏祭り、クリスマス会やその他、看護学生と協働のレクリエーション、それらの年間行事を通して患者様のいつもと違う変化や新たな発見ができ、それをきっかけとして活動範囲をひろげるように導いていくように関わっている。



<風船バレー>



< 玉入れ >

参加された患者様、外来からの患者様の笑顔が何よりの看護師の励みとなっている。

また、外来との連携の一つとして病棟看護師が退院後の初回受診時は外来に出向き退院後の生活状況を聞き医師、PSWに情報の伝達をしている。

外来受診時の患者様の反応は知った看護師が話を聞いてくれることで気分が楽になる。という反応も頂いている。

<今後の課題>

入院期間の制限がなくなり多彩な症状の患者様が入院される為、症状の変化をアセスメントしながら医師を含め看護師間の情報交換を密にし、治療的、看護的介入をしていきたい。